

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
1 (著書) 精神科病院と地域支援者をつ なぐみんなの退院促進プログ ラム―実施マニュアル&戦略 ガイドライン―	共著	2021 年 1 月	ミネルヴァ書房	本書は、長期にわたり精神科病院に入院している人々が退院して地域で生活できるようにするために必要な手立てを、プログラム評価理論の観点からわかりやすくまとめた。 (著書全体の著者名:古屋龍太、大島巖編著、 <u>長谷部隆一</u> 、ほか 20 名、計 23 名) 担当部分の概要:「コラム 4 居住サポート事業と連動した地域移行支援―広島県三原市の場合」 (担当ページ:pp28～29、単著)
2 (著書) 医療福祉総合ガイドブック 2023 年度版	共著	2023 年 4 月	株式会社 医学書 院／NPO 法人 日 本医療ソーシャル ワーカー研究会編 集	本書は、医療福祉サービスを利用者の生活場面に沿って解説したガイドブックの 2023 年度版。医療保険、生活保護、年金保険、介護保険、障害者総合支援法、子どものいる家庭への支援、自然災害に対する支援等、全国共通で利用頻度の高い制度から地域によって異なるサービスまで幅広く網羅、コロナ禍で利用できるサービスも解説。(総ページ数:317 頁) 担当部分の概要: V 障害者サービス執筆担当 (著書全体の著者名:村上須賀子・佐々木哲二郎・高石麗理湖・河村愛子・中川美幸・渡邊佳代子・奥村晴彦・徳富和恵・森崎千晴・下田薫・下村幸仁、飯田花緒里編著、 <u>長谷部隆一</u> ほか 45 名、計 57 名) (担当ページ:pp.181～228、共著)
3 (著書) 医療福祉相談ガイドブック 【2024 年度版】 ソーシャルワーカー・ケアマネ ジャー必携	共著	2024 年 4 月	株式会社 明石書 院	本書は、医療・介護・地域で活動するソーシャルワーカー、ケアマネジャー、支援員、コーディネーターや各種専門職を学ぶ学生など、相談援助に携わるすべての人たちに向け、社会保障制度の有効活用により生活問題の解決をはかるための 2024 年度版ガイドブック。(総ページ数:218) (著書全体の著者名:村上須賀子・高橋麗理湖・徳富和恵・森崎千晴・村上武敏・中川美幸編著、 <u>長谷部隆一</u> ほか 29 名、計 36 名) (担当ページ:pp.153～177、共著)
4 (著書) 精神保健福祉制度論(第 2 版)	共著	2025 年 1 月	中央法規	本書は、新カリキュラムに対応した精神保健福祉士養成の教科書シリーズの専門科目。 (著書全体の著者名:青木聖久、大岡由佳、大塚淳子、風間朋子、高木善史、 <u>長谷部隆一</u> 、三木良子、山口弘幸、吉池毅志) 担当部分の概要:「第 2 章 第 1 節 精神保健福祉法の概要と精神保健福祉士の役割」 (担当ページ:pp36～60、単著)
5 (学会発表) 「精神保健福祉士としてのソー シャルアクションを考える～こ れまでの実践を振り返って～」	単著	2023 年 11 月	第 58 回社団法人 日本精神保健福祉 士協会全国大会・ 第 22 回日本精神 保健福祉士学会学 術集会	私たちは、様々な制度や社会資源を活用しながら生活している。制度・社会資源はその時代や状況に応じて、策定・創造されている。精神障害のある人々は、障害者基本法及び精神保健福祉法(精神保健及び精神障害者福祉に関する法律)が成立するまで、長年、社会福祉の対象外とされてきた。発表者は生活のしづらさを抱える人たちの地域生活を支援していくため、協働して様々なソーシャルアクションを展開してきた。これまでの実践を振り返り、精神保健福祉士としてのソーシャルアクションの必要性について考察した。